

学生の自主活動への支援

第二十三回本九祭活動報告

第二十三回本九祭実行委員長

秋光 花

二〇一九年九月二十七日、熊本大学医学部キャンパスで第二十三回本九祭が行われました。雨予報と心配されていたが、当日は雨雲も熊本を避けて通り、軽音部や有志団体におけるステージや出店、お笑い芸人によるお笑いライブなど盛況のうち祭りを完遂させることができました。

が本九祭をやるべき学年の時にやらなかったせいで彼らは、ほぼゼロからやることになったのです。だからせめて、新しく生み出してくれたことに感謝し、それを次に繋がる形にして広げることが、今年度私たちのやるべき事なのだと思います。昨年から今年へ少し奇妙な形の継承となりましたが、今後の祭り存続につながるため、今年度の実行委員会の構成メンバーは学年、学科不問の医学部生となるように、保健学科や医学科の他学年に対しても広報活動を行い、二〇一九年度の委員は五十人を超えました。

今年度は、幅広い年代の来場者の獲得を狙って、場内のスタンプリー、ふあふあくまモン、漢方講義、骨密度測定などのコーナーも設置され、子供から大人まで楽しく医療の世界を身近に感じられる医学部ならではの企画「手術体験」も復活、人気を博しました。また後夜祭と称して行われた、スマブラ大会と格付け番付は学生の熱気であふれていました。昨年、一学年下の後輩たちが復活させてくれた本九祭を、今年なんの由縁か五年生が中心となって行うことになりました。

これまでの実行委員会は三年生が中心となって行ってきたが、カリキュラムが変わってからは、三年生は勉強と部活動の幹部などで超絶忙しい時期となってしまうため、実行委員会の幹部五年生体制が今後の祭りの実現可能性を上げることになりませんが、定着するまでにしばらくの猶予が必要だと思えます。また、コロナ騒動の昨今、次回の開催は難しくなると予想されますが、この度の本九祭での思い出が次世代の原動力になることを祈っています。

準備を始めてすぐに、経験も継承もないまま本九祭をゼロから作り上げた後輩の苦勞を知りました。それも、私たち

この度は、第二十三回本九祭に足を運んでいただき、ありがとうございます。また、本九祭開催につきまして、ご寄稿、ご協賛いただいた皆様にこの場を借りて

厚く御礼申し上げます。

